



【救急医療週間特集】

2020年度 救命救急センター診療実績
受診者 20,202人
 (救急車3,644件、ヘリ搬送71件)

「救急の日」の9月9日を含む、9月5日～11日は「救急医療週間」です。そこで、今号では2020年度(令和2年4月1日～令和3年3月31日)の当院救命救急センター(以下、救急センター)の診療実績をご報告いたします。

○ 亀田総合病院 救急センターは、南房総の救急医療の最後の砦として役割を果たすよう努力しています。

2020年度の救急受診数は20,202人(昨年度は26,996人)、救急車搬送3,644件(4,111件)、ドクターヘリおよびその他のヘリ搬送71件(99件)でした。

ベッドが満床などの理由で救急車を受けることができなかったのが219件、不応需率5.7%(5.6%)でした。当院で応需できなかった救急車の一部は症状が軽く近隣の救急病院でも対応可能との判断の患者さまも含まれます。昨年度は新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナウイルス)の影響で救急センターを受診する患者さまが減少した印象です。



救命救急センター長
不動寺 純明

新型コロナウイルス 感染者発生と対応について

8月20日現在、亀田総合病院の3つの入院病棟で、職員および入院患者さまから新型コロナウイルスの感染が判明しました。集団発生事案として、それぞれ手順に沿って対応中です。

【院内対応】

当該病棟での感染対策の状況を確認し、引き続き感染の状況について調査を行っています。また、直ちに安房保健所に連絡し、当院新型コロナウイルス感染症対策本部の指示のもと、濃厚接触者の評価を行い、あらためて感染拡大を防ぐための方策を実行しています。

なお、詳しくはホームページ(<http://www.kameda.com/ja/general/>)を通じて、情報更新をしていますので、最新情報はこちらをご確認願います。



ご存知の通り、昨年より猛威を奮っている新型コロナですが、今年8月に入り発熱患者が急増しています。

救急センターでの新型コロナ対応方針は3つです。

- 1) 発熱のみの患者さまはできるだけ発熱外来を受診
- 2) 救急センターでは新型コロナPCR検査は行わない
- 3) 発熱、^{せき}咳、味覚障害などある方は車中や離れた部屋で待機してもらう

新型コロナは「密」になったり、接触することで感染します。狭い待合室に患者さまが集まることで感染が広がります。上記は感染拡大を防ぐための対策ですので何卒ご理解ください。幸い新型コロナは症状がでてもすぐに重症になることはありません。落ち着いて翌日の「発熱外来」(月～金曜日 9:00～12:00 ※来院前に必ず電話連絡をお願いします)を受診してください。新型コロナの対応で一般救急の患者さまをお断りすることがないように、発熱外来と役割分担しています。ご理解をお願いいたします。

新型コロナは感染すると100人中に1～2人は死亡する怖い感染症です。しかし、ワクチンを接種することで死亡率を下げられると言われています。ワクチンを接種するまでは感染しないように注意が必要です。



おたふくかぜワクチン 供給再開

任意予防接種に使用されている「乾燥弱毒性おたふくかぜワクチン」の入荷が不足し、接種の延期や中止をお願いしていましたが、この度、ワクチンの在庫が確保できました。

従来通りの予約を再開いたしましたので、当院予約センター(04-7099-1111)までご連絡をお願いいたします。



bayfm「MEDICAL UPDATES」

FMラジオ局ベイエフエムの午後のワイド番組『it!!(イット)』では、毎週火曜日の午後3時から、当院のスタッフが出演する「MEDICAL UPDATES」のコーナーが好評放送中です。9月はスポーツ医学科医長の高澤修三医師が、「膝靱帯損傷」をテーマにお話しいたします。ぜひ、お聴きください。



亀田のオンライン診療

5 脊椎脊髄外科 (せきついせきずいげか)

脊椎脊髄外科のご紹介



脊椎脊髄外科は、背骨や神経の外科治療(手術)を専門に担当しています。いわば背骨と神経の病気のスペシャリストです。

「手がしびれる」「箸がうまく使えない」「転びやすくなった」…これらは頸椎症性脊髄症、頸椎椎間板ヘルニア、後縦靱帯骨化症、手根管症候群など、頸椎や末梢神経の病気によく見られる症状です。また、「ひどい腰痛がある」「坐骨神経痛で動くこともできない」「歩いていると足がしびれてくる」…これらは腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎すべり症、椎体圧迫骨折など腰の骨(腰椎)の病気の典型的な症状です。脊椎・脊髄・末梢神経が原因で起こる症状はまだまだ沢山あります。

亀田クリニックのほか、亀田京橋クリニック、亀田総合病院附属幕張クリニックでも外来を開設していますので、例に挙げたような症状でお困りの方はぜひご相談ください。

また、この夏からは通常外来に加えて2つのオンライン診療も開始しました。1つは初診のセカンドオピニオン(自費診療)と、もう1つは当院で外科的治療を受けた遠方にお住まいの方を対象にした術後経過観察(保険診療)を目的としたオンライン診療です。

また、この夏からは通常外来に加えて2つのオンライン診療も開始しました。1つは初診のセカンドオピニオン(自費診療)と、もう1つは当院で外科的治療を受けた遠方にお住まいの方を対象にした術後経過観察(保険診療)を目的としたオンライン診療です。

2つのオンライン診療メニューと対象となる患者さま

①再診：術後経過観察(保険診療)

対象：当院で外科的治療を受けた方で、遠方にお住まいの方

診療日時：木曜日 15:30～16:00

②初診：オンライン・セカンドオピニオン(自費診療)

対象：原則として他院の受診歴のある方

「長いこと保存的治療を受けているけれど、なかなか良くならない」「脊椎の手術を勧められているけれど、別の専門医の意見を聞いてみたい」「セカンドオピニオン外来を

受けたいけれど、身体の状態や住まいが遠距離等で直接受診することが難しい」という方はご相談ください。

※診療情報提供書および脊椎脊髄外科問診票を拝見した上で受診予約をお取りいたします。なお、他院で受けられた術後経過に関するご相談、交通事故や労災などの保証や訴訟などに関するご相談、内科的疾患や心理的要因での痛みやしびれなどに関するご相談など、相談内容によってはオンライン・セカンドオピニオンをお受けできない場合があります。

対象疾患：

- ・脊椎変性疾患
 - 頸椎変性疾患：椎間板ヘルニア、変形性頸椎症、後縦靱帯骨化症
 - 胸椎変性疾患：黄色靱帯骨化症、後縦靱帯骨化症、椎間板ヘルニア
 - 腰椎変性疾患：椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離滑り症
- ・脊椎・脊髄腫瘍：原発性および転移性脊椎腫瘍、硬膜内腫瘍、脊髄内腫瘍
- ・先天性脊椎脊髄疾患：キアリ奇形、脊髄空洞症、(脊髄膜瘤)、頭蓋頸椎移行部奇形
- ・脊髄血管障害：脊髄動静脈奇形・動静脈瘤
- ・脊椎・脊髄外傷：腰椎圧迫骨折
- ・絞扼性末梢神経障害：手根管症候群、肘管症候群、足根管症候群、胸郭出口症候群 ほか

ご用意いただくもの：

1. 診療情報提供書
2. 他院で撮影された画像データ(MRI、CT、レントゲンなど)
3. 脊椎脊髄外科問診票

診療日時：木曜日14:00～15:00(診察時間は40分を予定)

担当する医師



久保田 基夫 医師
脊椎脊髄外科部長

【専門分野】脊椎脊髄疾患、末梢神経疾患の外科治療

当院のオンライン診療について詳しくは専用ホームページ(<https://online.kameda.com/>)をご確認ください。次回は乳腺科が取り組むオンライン診療についてご紹介いたします。



医師紹介 なかち けんいちろう 医師

仲地

健一郎

医師

- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言



①消化器内科(部長)

②内視鏡治療

③海外旅行

④信頼関係を大切にしたい医療をしていきたいと思っています。よろしくお願いします



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <http://www.kameda.com>